

●論壇

交通事故全国一返上への取り組み

田 畑 允*

Hokkaido is Fed-up with Being No. 1 in Traffic Accidents

Makoto TABATA*

東京から来た友人を案内して街へ出た。札幌はこの冬、雪が多い。しかし日中は割と暖かい。数分も歩かないうちに友人は「北海道では夜でもないのに車がライトをつけて走っているのか」と驚いた。夕暮れまでにはまだ小1時間もあるというのに、走行車が前照灯をつけていると言うのだ。驚かれて改めて「早め点灯運動は北海道だけでやっているのか」と合点がいったが、実はこの運動は、交通事故死日本一の「黒い記録、が続く北海道でことしから始まった、事故死抑止運動の一つなのである。

北緯43度ラインにある北海道は薄暮の時間が長く、日没後にすぐ暗くなる低緯度の地域に比べて交通上、危険な状態が長く続く。この薄暮時になると、車外環境が青味がかってくる現象をブルキニエ現象と言う。このブルキニエ現象の中で交通事故、とくに死亡事故が発生するひん度が高くなるのである。全くのところ、青は死へ直結する世界なのである。こうした実態がこれまでの事故分析からわかったため、歩行者、自転車から自動車を発見し易い、自動車からも車や人が発見し易い、吹雪の際も視認性を高くしようといったことから、薄暮30分前から前照灯を下向きに点灯する呼びかけを始めたのである。運動の広がりはいタク、トラックなどは大半が実施しているようだが、マイカーはいまひとつというのが現状のようである。

ところで北海道で55年中に起きた交通事故は1万6,737件で死者510人、負傷者2万3,375人を数えた。これは死者最多年だった46年に比べて、発生で62%、死者で57%、負傷者は60%の数字である。また、死者は前年より39人減ったものの、絶対数では全国ワースト1位で、北海道はまたしても、この「黒い記録」を重ね、この11年間に全国一を返上したのは49年の1年間だけで、通算10回、50年以降は連続6年、この記録を重ね、関係者に深刻なショックを与えた。

北海道や北海道警の記録によると、戦後22年以降の交通事故による死者累計は1万7,000人、負傷者は30万人にのぼっており、「向う三軒両隣り、で一軒の道民家庭が犠牲者を出しており、北海道のNo.2都市・旭川市の人口がほぼ、この犠牲者総数になる。

このため、道民意識調査でも、身の周りで危険を感じるものの1番は交通事故で火災の2倍、落雪・雪道の3倍となっており、いまや事故からの安全は「北方領土返還」と同じほど、切実だという点では、それ以上の意味で道民の悲願だと言える。

その事故対策だが、これまで取り締まり(力)、安全施設(もの)、安全教育(心)といった面から行われてきたが、車両早め点灯運動など、地域のもつ事故特性の分析に基づくものももっと打ち出されていいと思う。だがそれにしても、昨年の死者の40%は25歳未満のヤングドライバーの暴走運転によるものだった。そして、その犠牲者の60%は老人、子供だった。なんとも「後進地」的な痛ましきで胸がつぶれる。

さらに気になるのは、事故件数がふえ出したことだ。再び交通戦争が始まったのではないかといった予感がする。広大、過疎、都市点在といった北海道の「車社会、化は今後、さらに進む。1世帯2台時代は目前である。生活者と自動車がなじむ「セーフティ北海道、づくりに、ことしも取り組まなければならない。

*北海道新聞編集委員
Feature Writer &
Commentator, Hokkaido Shimibun
原稿受理 昭和56年1月14日